

## 2 高津比咩神社

藤 由美

高津比咩神社は旧高津村の産土神社で、105軒の氏子組織で構成される特別委員会が大祭委員会（役員実数48名うち4名は若衆の立世話人）を召集し、この大祭委員会が七年祭の執行を担った。

### I 大祭準備

#### 1 七年祭関係神社合同打ち合わせ 於二宮神社社務所

- ・第1回 平成15年6月1日（日）高津より江野澤隆之特別委員会委員長ほか2名出席 祭典日程・連絡窓口の確認、意見交換。
- ・第2回（6/29）は高津の宮司とともに二宮神社正式参拝。
- ・以下、第3回～第4回は、「P73 大和田の時平神社」とほぼ同じ。

#### 2. 高津の大祭委員会

- ・第1回 6月22日（日） 於自治会館祭典委員長1名・副委員長2名・会計3名を選出、氏子負担金（1戸3万円）、謝礼金、自治会（主に新住民）への参加依頼、昇夫・衣装・屋台・太鼓（若撥会）などの対応などを協議～この間、委員会文書作成（6/23）、執行部の会合2回（神輿検分）～
- ・第2回 7月20日（日） 予算案の可決、バス・トラック輸送、紋章（丸に高のマークを委員全員が付ける）、役割分担、受付場所・各休憩所のお願ひ、往来切り日程（10/12）、立世話人からの提案（貸付衣装の新調、屋台の車輪の新調など）、委員会監事選出～この間、執行部の会合6回、長副会合5回～
- ・第3回 9月7日（日） 氏子各戸の役割分担（休憩所ほか）照明工事発注、屋台子どもへの対応、交通係りのユニホーム、ガードマンについて協議～この間、執行部の会合6回、長副会計会合3回、各係長会議1回 警察との協議3回～
- ・第4回 10月19日（日） 街路の注連縄張り日程（10/25各二ワ毎）、立世話人による祭礼日程の確認、招待状送付の件、物収袋（各戸1000円以上）配布～この間、執行部の会合4回、警察との協議3回～

#### ・解散式 11月28日（金）

#### 3. 神輿と屋台（山車）の点検修理

- ・7月1日（火）浅草宮本神輿店立会いで御神輿検分、今回は修理不要と判断
- ・7月22日（火）屋台車輪調べ。8月7日神輿店立会いで屋台車輪の検分の結果、日本の松材で新調の必要ありとことで、急遽予算を検討。8月11日税込み220万円で発注した。
- ・10月5日 若衆による屋台の環路（よう



10.16神輿の手入れ

らく) 磨き

- ・10月16日 執行部による神輿磨き(写真1)
- ・10月31日～11月1日 若衆による屋台の組立てと飾りつけ(写真2)
- ・11月1日 神輿飾りつけと御魂入れ

#### 4. 大祭の経費

- ・氏子負担金1戸当たり3万円、奉納花代総額500万円、特別会計より597万円、総計1450万円の予算で執行。

#### 5. 警察との打ち合わせ

- ・第1回 6月16日(月) 大和田・萱田町と合同。警察からの要望は「全面通行止めはよくない、自主警備の強化(地元の人数増とガードマンの要請)、警備の人は禁酒」
- ・第2回 9月9日(火) 大和田・萱田町と合同。高津は警察官の配備はなく、自主警備を。手示棒を用意。  
9月18日(木) 神輿渡御順路の現地確認、一方通行遵守で南のニワの順路が変更。
- ・第3回 10月14日(水) 神輿屋台の渡御順路、提出資料の確認。主要交差点には、警察官が3人、自主警備は6人出すように。  
10月21日と22日 警察官派遣要請書提出の手続き、道路使用許可証。  
10月23日 神輿渡御順路の現地検分、注意事項の確認。

#### 6. 祭りの役職と役割分担

- ・委員会役職:宮司、大祭委員長、大祭副委員長2名、大祭会計3名、大祭監事2名、立世話人4名、その他大祭役員 計48名
- ・委員会役割:神輿係、金幣、飲食係、囃子接待係、交通整理係、警備係、運転係。2日はバス係、警備係。3日は子供世話係、受付。
- ・若衆役割分担:大世話人4名、立世話人(前回金棒)4名、金棒4名(\*各ニワ1名)、高張4名\*、拍子木(前立世話人)2名、神輿係(前立世話人)2名、屋台係4名\*、交通係4名(ならし中心)、棒頭16名(各ニワ4名)、子供世話係(ならし中心)、スタッフ(高津消防団第5分団)

#### 7. 大祭直前の準備

- ・10月11日 案内状宛名はインターネットで調べ、送付。紙垂作り2430枚。
- ・10月12日 往来切り(全員参加)、大祭のため迷惑お知らせ看板設置
- ・10月25日 街路の注連縄張り(写真3)
- ・10月30日 神社への国旗、神社入り口への大祭看板設置、若衆による屋台の組み立て



11.1 屋台の飾りつけ



10.25 注連縄張り

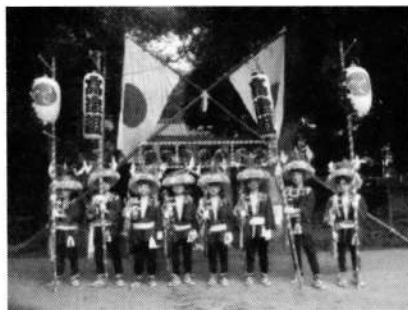
- ・ 11月1日 神社、神輿の飾りつけ、屋台飾りつけ（若衆）

## II 祭礼日程

- ・ 11月1日（土）前日  
午後3時から勢揃い式（委員長挨拶・お神酒・若衆役付け紹介・神輿担ぎのリハーサル）、午後5時から御魂移しの儀
- ・ 11月2日（日）三山大祭当日  
午前7時から発興式（神事・委員長挨拶・神輿引渡し・立世話人挨拶・乾杯）、8時出発、県道近くで車載、10時三山のジョウグチ宅で休憩後、チュウベイ宅まで渡御、昼食。  
12時40分神揃場到着、献幣の儀、午後3時二宮神社昇殿式典、4時チュウベイ宅帰着、夕食。6時還御へ向け出発、途中磯出式に向かう一行を見送り、7時駐車場に三山の氏子に見送られ車載、8時半に還御。
- ・ 11月3日（祝）花流し（ムラウチ巡幸）  
午前7時半から発興式（収祓の儀・祝詞奏上・拝礼・委員長挨拶・乾杯）、8時神輿の渡御開始、9ヶ所のヤドで休憩しながら全日氏子の家をまわる。  
10時子供の待つデンニム家で屋台と合流、12時弁天様先の空き地で昼食（雨が本降りとなる）。午後2時、神輿と屋台の同時巡幸、シチロウザエモン家前で屋台休憩、八千代若撥会による太鼓ショー、3時子供解散。  
3時半神輿渡御再開、途中夕食休憩。予定より早く7時40分還御、境内で神輿揉み。  
8時半手締め、遷興式（祝詞、御魂移し、委員長挨拶、神輿引渡し）解散。

## III 祭礼を継続させるしくみについて気づいたこと

1. 消防団のメンバーが若衆の中心となり、各ニワから選ばれた4人の金棒が次期の世話人を務め、さらにナラシとしてサポートして若衆組織を育て、ダンナ衆の一員になってからは自らもリーダーを担っていくという世代交代のしくみが有効に働いている（写真4）
2. 若衆とダンナ衆の分担は明確で、神輿引継ぎ式まで、若衆は神輿に触れることはできない。屋台の準備は全て若衆。ダンナ衆は若衆の組織には自主性を認めて介入しない。
3. かつては由緒ある大家が伝統的に世話人を務め、ヤド（休憩所）やカカリ（経費）を負担してきたが、現在は政教分離の原則から105軒の氏子で特別委員会を組織し、委員会として飲食の手当てや休憩所の設置を行い、また分担金や当番も公平にするなど民主的な運営を目指している。旧家のご婦人方は「昔はヤドの世話で神輿も見に行く暇もなく寝ずに働いた」と言っていたが、近年は各戸の負担を少なくし、三山へはシャトルバスも運行して家族で楽しめるように心配りをしている。



高津の将来を担う若衆

4. 元農家の資産家の家が多いと思っていたが、自営のほか学校の先生や会社や役所で活躍している人が多く、ダンナ衆は休暇をとったり、若衆は週末を祭礼準備に当たったりして大勢で楽しく運営している。神輿の舁夫は、縁故や新しい住民を含む自治会へも呼びかけて確保に努めている。
5. 神輿は辻切りの範囲内の渡御となっていたが、氏子はその外に転居すると、渡御コースも拡大することになる。一方通行などの規制もあり、毎回コースの設定に苦労しているが、昨今は警察の注意をよく守るようにし、理解が得られるよう努力している。

〈 最後に 〉 平成9年の大祭では2日間、祭りの見せ場である神輿と山車の巡幸の写真撮影であったが、今回は祭礼の準備過程を調査しようということになり、半年前の5月から高津の皆様のお世話になりました。氏子のダンナ衆、若衆、旧家のご婦人方にお話をお聞きしながら、祭りだけでなくムラに伝わるしきたりやしきみを一から学び、またその過程のルポと画像をリアルタイムで筆者のホームページに掲載し、ともに祭りの興奮を共有化できたことは個人的にも貴重な経験となりました。

資料を提供くださった岩井健三様、また取材をお許しくださった高津の皆様へ感謝します。なお、いただいた全ての資料とホームページ画文集は、酒井会員の手で製本していただき八千代市立郷土博物館に資料として寄贈したことを申しそえます。



三山の高津のヤドにご挨拶に見えた大和田時平神社の一行